

第3回 周南市まち・ひと・しごと創生戦略会議（第5部会）会議録

日 時 平成27年9月9日（木） 9時30分から

場 所 周南市役所3F 防災会議室

出席者 ・委員 5名

有吉 毅彦、牧 洋史、稲葉 和也、徳永 徹、中村 孝史

・担当課・事務局職員 7名

中村 充孝、菅田 浩司、藤井 良明、宮崎 正臣、原田 修司、行富 広康、
山本 彩乃

会 議 議 事 録

1 開 会

（前回会議録等の内容確認）

2 グループワーク（以下、委員からの提案等）

- (1) 前回の振り返りと総合戦略掲載施策・事業等の検討
- (2) 数値目標等について検討

【公共交通に関する意見】

- 「人を大事にするネットワーク」という概念を入れてもらいたい。変えたいことや、不満なことについて、さまざまな意見を拾って、できることは何かなどを理解していくことがまちづくりなのではないか。
- これは戦略なので、今のことを盛り込むとしたら、（アンケートなど）調査を行い、（地下道やバス停などをどうするのかという）対策を練って予算措置をするということになると思うので、そうしたことを書き込んでいくという話になるのではないか。
- 交通弱者などの観点からのひっかかりが施策等の書きぶりのなかに見られなと思ったので、そうした観点も入れてもらいたい。

【コンビナートに関する意見】

- 地域資源とは何なのかを考えれば、確かに周南はコンビナートでもあるが、まちにとって一番大切な要素は知の拠点である学校であると思う。それと雇用の場。コンビナートと高校・高専・大学を結びつけることが何かできるといいのではないか。
- 水素にしても電気にしても、一般に供給される構想やそうした住宅地の集積地で

あるとかを作っていないと伝わらない。そうしたことを誘導する施策を書いておけばいいのでは。

【その他】

- 大学には留学生が結構いるのではないか。こうした学生を留める対策も考えてみてもいいのでは。広島県では補助金を出して地元への就職支援をしている。
- 美祢市は台北の支所を設けて観光客を誘致しており、台湾から観光客が多く来ている。足がかりとなる施設があれば外国の観光客も来る。徳山にもそうした施設があれば観光客増えるのではないか。
- 観光資源を結びつけたネットワークをつくらないといいことにはならないと思う。単体ではうまくいかない。
- 角島や須佐の男命イカを食べるためだけに行く人もいる。周南もそうしたポイント観光の中に入れてもいいと思う。
- 県内の酒造メーカーは頑張っている。東広島の西条の酒祭りなどは20万人も来る。こうしたことを行ってみてもいいのではないか。
- 萌えサミットをはじめ、徳山でもいろいろとイベントを行っている。もっとPRすればよいのではないか。
- コンビナートの街であり、定期修理の職人が集まる。このときはホテルが満杯になる。さらに、福岡・広島などでコンサートがあればホテルが取れないので、ここまでくる人もいる。こうした点をみればビジネスチャンスは色々あるのではないか。
- 大分から来る人や国道を行き交う人にとって周南市は通過点に過ぎない。何か通過する人を引き込むようなことは考えられないか。そのための魅力ある施設の整備など視点を変えて考えてみるのもいいのではないか。
- 数年後この計画を見たときに、地域のことをよく考えて作ってあるなど思えるような、尖ったものにしておかないと、継続も難しいし、国からも認められにくい。
- 旬は過ぎていくかもしれないが、ゆるキャラを作ってもいいのではないか。話題性もあっていいのでは。

【KPI、数値目標に関する意見】

- 今掲げているKPIはおそらく達成できるものだと思う。しかし、裏付けは必要だが、もう少し高い目標を設定してもいいのではないか。
- 燃料電池自動車・水素自動車の登録台数の他に、何かないか。中心地に限った環境改善率など。

3 閉会

(次回開催案内)